

文部科学大臣表彰受賞決定 ～平成26年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）～ 八代市立鏡西部小学校、天草市立河浦中学校、熊本県立南関高等学校、 宇城市立中央図書館、絵本とおはなし風吹きからすが受賞

この表彰は、平成13年12月施行の「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、平成14年度から文部科学省が実施しています。これは、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において、特色ある優れた実践を行っている学校・図書館・団体（個人）に対し、その実績をたたえ文部科学大臣が表彰するものです。

平成26年度の受賞校・図書館・団体（個人）は、下記のとおりです。

記

1 表彰式

- (1) 期日：平成26年4月23日（水）
- (2) 場所：独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立オリンピック記念青少年総合センター
- (3) 時間：午後1時から午後4時15分まで（閉会予定）

2 受賞校、図書館、団体

(1) 優秀実践校

◇八代市立鏡西部小学校

鏡西部小学校では、魅力ある学校図書館づくりに向けて、図書委員会（児童）による1年生への読み聞かせ等の読書啓発活動や図書館デザインサポート事業を活用した読書環境づくりに取り組んでいる。

また、朝の読み聞かせといった継続的な活動による読書の習慣化、親子輪読会等のイベント的な活動による読書への誘いなど多様な活動を通して、個々の読書のジャンルを広げたり、意欲・関心を高めたりしている。また、蔵書に加えて、地域の公立図書館から毎月100冊の借入れを行い、児童の多様なニーズに応える工夫をしている。

さらに、保育園への読み聞かせ交流や、保護者・地域の読み聞かせ応援団の活動など、学校図書館を核に地域交流を行っている。児童の読書活動に関する意識も高く、以前は年間貸出数が1人あたり80冊に満たなかったが、平成24年度には128冊となり、週4回以上図書館を利用する児童が8割を超えている。

◇天草市立河浦中学校

河浦中学校では、図書館担当及び学校司書との連携により、委員会活動を含めた生徒の読書啓発の取組み、朝読書の継続的な実施、学校図書館デザインサポート事業を活用した環境整備、地域ボランティアや保護者を活用した読み聞かせを行っている。

また、公共図書館と連携した移動図書館の利用及び読書講演会の実施やPTA主催のふれあい読書研究会事業の効果的な活用を図っている。

このように、幅広く読書活動充実の取組みを継続的、計画的に推進することで、成果も上がっている。

具体的には、平成24年度に「年間貸出冊数0冊の生徒を0%にする」といった目標を掲げて、生徒が図書室を積極的に利用するような日常的な声かけや様々な取組みを行ったことで、年度末には目標を達成することができ、貸出冊数も前年度より一人当たり平均5.4冊増加した。

◇熊本県立南関高等学校

南関高校では、県内で最も早く、平成6年度から朝読書を実施し、長年にわたる学校全体での取り組みが円滑に浸透しており、学校の重点実践項目や各学年において「朝の10分間読書」の定着や充実を掲げ、読書活動の推進に学校全体で積極的・継続的に取り組んでいる。

生徒一人あたりの年間平均貸出し冊数は平成22年度23.5冊、平成23年度19.9冊、平成24年度26.1冊と県内でも上位である。また、図書委員会の活動の充実を図り、毎月の「図書館だより」発行や季節・テーマごとの特設展示など生徒たちが毎日の学校生活の中で読書意欲を高める工夫を行っている。さらに、調べ学習や視聴覚機器の利用など、授業等における学校図書館の利用が年間138時間と多い。このように学校全体で読書活動を推進する体制が整っている。

(2) 優秀実践図書館

◇宇城市立中央図書館

「子どもの読書活動を推進する図書館」を運営方針の1つに掲げ、様々な事業の推進にあたっている。具体的にはボランティアの方々と協働し、子どもを対象にした「オリジナル布絵本作り」を実施したことで、子どもたちが本や読書に興味を持つようになり、毎年ユニバーサルデザイン絵本コンクールで大賞や優秀賞を受賞している。さらに、親を対象にした「布絵本体験講座」を開催したことで、家庭における子どもへの読み聞かせにつながったり、布絵本ボランティアを養成し、それぞれの地域での活動へ広がりを見せている。

また、子どもが読書に興味を持つような定例おはなし会をはじめ、交通安全おはなし会等を実施している。

子どもが主体の取り組みとしては、平成19年から市内の小中学校との連携で読書感想画コンクールを実施し、作品を隣接する美術館に展示することで、子どもたちが読書に対する興味をさらに深めることができた。また、平成22年からは子どもに図書館司書ボランティア体験をしてもらい、図書館の果たす役割について理解を深め、ボランティア活動に対する喜びを感じてもらう取り組みを行っている。

(3) 優秀実践団体（個人）

◇絵本とおはなし風吹きからす(山鹿市)

地元や山鹿市の子どもたちへ「絵本の楽しさや読書のすばらしさ」を知ってもらいたいという思いから、結成以来、文庫活動・おはなし会・幼稚園などを廻っての人形劇公演を行うなど、地域に根付いた活動を行っている。現在もなお月1回のおはなし会を実施し、会員のさらなる技術研鑽に励んでおり、行政へは「読書の重要性」を伝え続けている。

本団体は、読書活動だけではなく、社会教育活動としてカヌー教室や水性生物調査といった「自然体験活動」を企画し、子どもたちが自然のありがたさや自然環境の大切さを身を持って体験する行事を長年続けている。

また、絵本作家を招いての講演会、「原画展」及び「仮面作りのワークショップ」を9年続けており、子どもたちの絵本の世界を想像する力や読書力を育み、読書振興の一役を担うことができた。

さらに、平成24年には本団体が中心となり、「絵本学会」を山鹿へ招聘し「絵本学会大会」を実施したことで、「読書のまち、山鹿」を全国に発信することができた。

問い合わせ先
熊本県教育庁教育総務局 社会教育課
家庭教育支援班
森北（もりきた）
（内線 6696）
TEL：096-333-2698